

恩加島事業センター

1. 事業概要

住所	〒551-0021 大阪市大正区南恩加島7-1-22
tel	06-6552-1181
従業員数	314名 (H27(2015).4.1現在)
敷地面積	78592㎡
事業内容	恩加島事業センターは大正6年に設立以来、クボタ発祥の鋳物製品の製造に携わってきました。当事業センターでは環境と人との調和を目指し、鋳造業界としては早期に「環境優良工場賞」を受賞し、環境マネジメントプログラムの国際規格である「ISO14001」を認証取得しています。さらに、品質面においては、品質マネジメントシステムの国際規格である「ISO9001」を各事業部間において認証取得しています。



主要製品



エンジン鋳物



ポンプ鋳物

工場変遷(沿革)

(設立年月日)

大正6年(1917)	大阪市浪速区より鋳物工場を移転
大正11年(1922)	内燃機鋳物、一般鋳物、合金鋳物の製造を開始
昭和8年(1933)	鋳型鋳物の製造を開始
昭和14年(1939)	トンネル用鋳鉄セグメントの製造開始
昭和39年(1964)	ダクタイルセグメントの製造開始
昭和49年(1974)	量産型遠心力鋳造による排水直管の量産開始
昭和51年(1976)	高圧高速造型鋳造によるエンジン鋳物の量産開始
昭和61年(1986)	減圧造型鋳造によるダクタイルセグメントの量産開始
昭和63年(1988)	中圧高速ライン(FLライン)稼働
平成3年(1991)	消失模型鋳造による排水集合管の量産開始
平成5年(1993)	日本工業規格(JIS)表示認可
平成9年(1997)	ESライン(流気加圧式造形ライン)稼働
平成10年(1998)	ISO9001認証取得
平成11年(1999)	ISO14001認証取得
平成13年(2001)	ダクタイルフレーム開発
平成18年(2006)	新キュポラ稼働
平成23年(2011)	SKMT(タイ)操業開始
平成25年(2013)	クボタ恩加島鋳物ミュージアム開設

恩加島事業センター

2.環境方針

ISO環境方針

恩加島事業センター環境方針

- 1) 環境マネジメントシステムを確立・維持し、商品の生産において、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を実施します。
- 2) 原材料の購入から製造、出荷に至る生産活動、商品及び付帯するサービスの各段階において汚染の予防に努めます。また、環境マネジメントシステムを継続的に向上させることによって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
特に、重点事項として、現場改善活動の中で
 - (1) 省資源・省エネルギーによる、地球温暖化の防止
 - (2) 産業廃棄物の削減による、循環型社会の形成
 - (3) 有害化学物質の削減による、環境問題の解決を推進します。
- 3) 環境関連の法規制を遵守するとともに、可能な限り自主基準を設定し、一層の環境保全に取り組みます。
- 4) 本方針を実践するための具体的な目的、目標及び施策を策定し、その実施状況を定期的に評価し、見直しを行うことに努めます。
- 5) この方針を事業センターの組織で働く又は組織のために働く全ての人々に周知させると共に、環境保全に対する意識の高揚に努めます。
- 6) 地域での環境保全活動への参画、支援に取り組み、地域との共生に努めます。また、この方針は公表します。

2013年10月1日

恩加島事業センター所長

飯塚育生

ISO認証取得状況

1999.12 ISO14001:1996 認証取得 JICQA 登録番号E105
2008.12 ISO14001:2004 更新

恩加島事業センター

3.環境保全中期計画 目標及び実績

課題	取り込み項目	管理指標	基準年度	目標 2015年度※4	2014年度	
					実績※4	自己評価※5
地球温暖化の防止	CO2の削減	CO2排出原単位※2	2008	▲14%	▲3.2%	△
	省エネルギー	エネルギー使用原単位	2008	▲14%	+2.6%	△
循環型社会の形成	廃棄物の削減	廃棄物排出原単位	2008	▲14%	▲14.4%	○
		再資源化率※3	-	99.5%以上	100.0%	○
	水資源の節約	水使用原単位	2008	▲21%	▲13.9%	△
化学物質の管理	VOC※1の削減	VOC排出原単位	2008	▲21%	▲100.0%	◎

※1 VOC(揮発性有機化合物)は、排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

※2 CO2排出量には非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は基準年度の値を使用します。

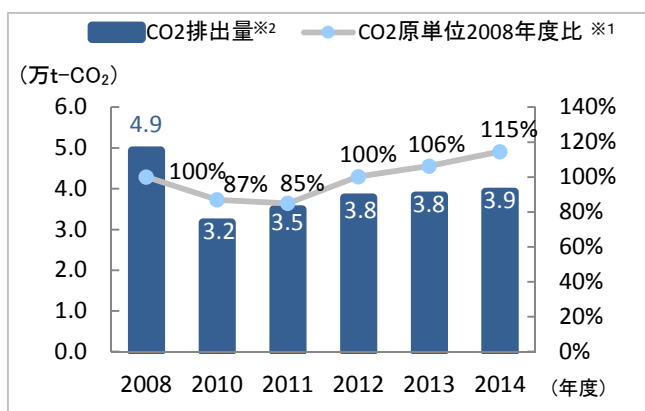
※3 再資源化率(%) = (有価物売却量+社外再資源化量) ÷ (有価物売却量+社外再資源化量+埋立量) × 100
社外再資源化量には熱回収量を含みます。

※4 ▲は「マイナス」を意味します。

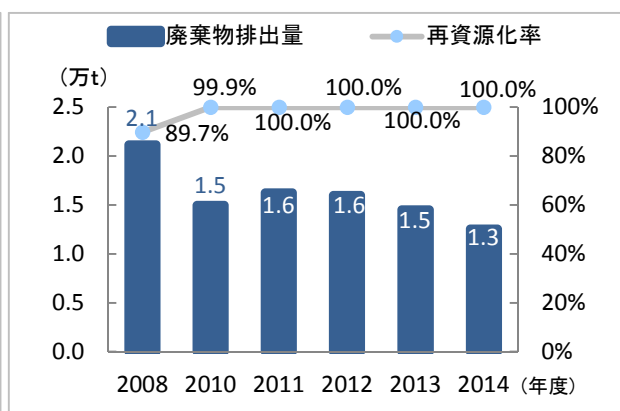
※5 自己評価の基準 ◎目標超過達成(目標を20%以上超過している場合) ○目標達成 △現状では未達成

4.環境パフォーマンス

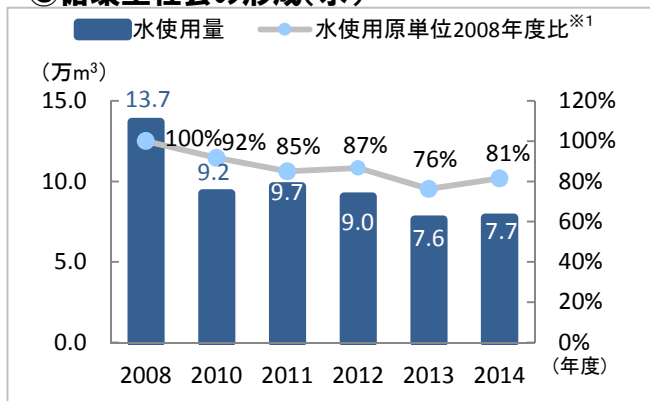
①地球温暖化の防止



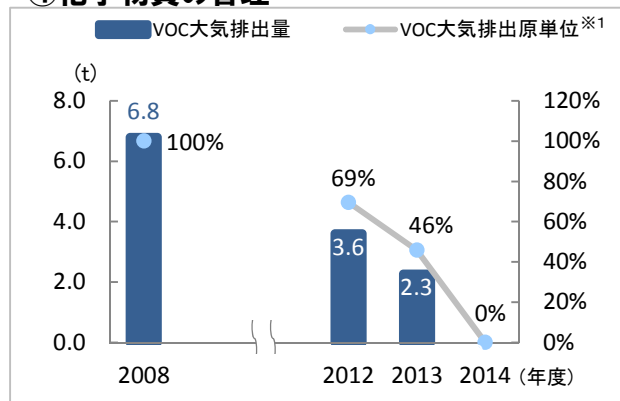
②循環型社会の形成(廃棄物)



③循環型社会の形成(水)



④化学物質の管理



※1 原単位2008年度比:2008年度の生産トン数ベースの原単位を100とした場合の割合

※2 CO2排出量はエネルギー起源のCO2排出量です。エネルギー起源CO2の算定において、電気の排出係数は各年度の値を使用します。

恩加島事業センター

4.環境パフォーマンス(つづき)

PRTR法対象物質の排出量・移動量の削減(2014年度)

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
87	クロム及び3価クロム化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	957
185	ジクロロペンタフルオロプロパン	2692	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
277	トリエチルアミン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
302	ナフタレン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
349	フェノール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
412	マンガン及びその化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	774
448	メチレンビス(4,1-フェニレン)イソシアネート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5.環境トピックス

環境省主催
「ライトダウンキャンペーン」への参加

実施情報
ライトダウンを実施(6/1~9/30) ※「夜間のみ点灯」を消灯
削減
1220kWh
実施項目
屋外照明(広告灯)



6.環境コミュニケーション



清掃ボランティア活動

撮影実施日: 2014年 9月 5日

参加者: 10~15名(毎月実施)

毎月1回恩加島事業センター前の歩道を清掃しています。



クボタ e-day

撮影実施日: 2014年 9月 18日

参加者: 176名(9/9、9/18に実施)

オールクボタの行事の一環として、工場周辺の清掃活動を行なっています。

恩加島事業センター

7. サイトデータ

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	14,620
水使用量	万m ³	7.7

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	39,186
----------------------------	-------------------	--------

	主要ばい煙発生施設		溶解炉(8号キューボラ)		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
排出ガス	SOx	総量規制・K値規制 ともにm ³ N/h	総量規制	2.859	0.26
	NOx	総量規制:m ³ N/h, 濃度規制:ppm	総量規制	2.40	0.21
	ばいじん	g/m ³ N	濃度規制	0.05	0.008

排水量	公共用水域 万m ³	—	
	下水道 万m ³	4.0	
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

	放流先	項目	単位	排水口名	
				規制値	測定値
排水	公共用水域	pH	最小値, 最大値		
		BOD	mg/l		
		COD	mg/l		
		窒素	mg/l		
		りん	mg/l		
		六価クロム	mg/l		
		鉛	mg/l		
		COD総量規制値	kg/日		
		窒素総量規制値	kg/日		
		りん総量規制値	kg/日		
	下水道	pH	最小値, 最大値	5.7~8.7	6.8, 8.2
		BOD	mg/l	600	22
		COD	mg/l	—	—
SS		mg/l	600	16	

廃棄物排出量	t	12,560
再資源化率	%	100.0%